

成果指標設定調書

【成果指標の設定】

成果指標設定年度 令和2 年度

市町村名	新座市			
提案事業名	新座のファンづくり！移住・定住推進事業 ～新座市制施行50周年～			
事業期間	令和2 年度	～	令和2 年度	
事業の必要性、目的	市制施行50周年という大きな節目を市を挙げてお祝いすることを通じて、市民の皆様にも新座市の魅力を改めて実感していただき、誇りを持ち、愛着を深めていただく。 さらに、新座市の魅力を広く内外に発信していくことで、より一層希望が持てる明るい未来を思い描けるような「住んでみたい・ずっと住み続けたい」まちづくりの機会とし、移住人口及び定住人口の増加を推進することを目的とする。			
成果指標	(成果を検証する指標) 新座市の転入人口と転出人口の差			
	(成果検証の具体的な方法) 統計情報			
	(上記の指標を設定した理由) 市制施行50周年を契機として、市の魅力を知っていただく、又は再発見していただくことで定住者や転入者の増加を目的としていることから、新座市から転出する人数よりも、新たに新座市に転入する方の人数が多くなることを課題とした。今回の交付対象事業を通じて、課題である市民の定住化及び新たな転入者の増加に関する効果が測定できるものとする。			
	(成果の目標値)			
	現状値 (R2年3月現在)	令和元年度 587 人 (転入8,398人、転出7,811人)	目標値 (R3年3月時点)	1,000 人
	(施設建設等の場合)			
	年間利用者数(目標)(人)		稼働率(目標)(%)	
住民への公表方法及び特記事項	市ホームページ、広報紙、SNS等で周知を行うほか、各イベントにおいてチラシや記念品を配布する。			

【成果指標と構成事業の関連性】

令和2年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費(千円)
① PR事業	ソフト 新座市役所庁舎に懸垂幕やウインドウシートを設置するほか、学校を含む市内の公共施設等に玄関ステッカーを設置する。また、チラシ等を作成し、配布する。 市内外の方に新座の50周年について知っていただく。	581
② 新座の歴史を知ろう!	ソフト 市史ダイジェスト版「(仮称)新座の歴史」、概要版(リーフレット)を作成するほか、市制施行50周年記念式典の中で、スライド「映像で見る新座の歴史」を上映する。 また、市の歴史を踏まえ、「広報にいざ50周年記念号」を発行する。多くの方に新座市の歴史を知っていただき、市への誇りと愛着を深める。	4,228
③ 新座市制施行50周年記念切手シート作成事業	ソフト 新座市制施行50周年を記念し、特別なオリジナル記念切手シートを作成する。新座市の景観やイメージキャラクターであるゾウキリンのデザインのほか、オリンピック・パラリンピック競技大会にちなんだデザインを取り入れて作成し、郵便局で販売するなどして市内外の方の新座市への興味関心を高める。	828
④ Happy Birthday 11・1キャンペン	ソフト 令和2年11月1日に生まれた方、11月1日から同月7日までの間に(市内外問わず)新座市に出生届を提出された方へ記念プレゼントを贈呈し、ともにお祝いをする。また、昭和45年11月1日に生まれた方を記念式典に招待する。対象となる方だけではなく、多くの方に新座に興味を持っていただき、新座との「縁」を作る契機とする。	11
⑤ 新座から魅力を発信しよう!	ソフト 新座市の観光親善大使に依頼し、一日市長をしていただく。11月1日に開催する市制施行50周年記念式典や新座快適みらい都市市民まつり産業フェスティバルに参加する予定である。新座市に縁のある著名人に来ていただくことで、SNSなどを活用し、新座市の魅力を発信していく。	250
⑥ 大相撲新座場所	間接補 市内で「初」の大相撲新座場所を開催する。今までにないスポーツイベントを開催することにより新たなファン層の心を掴み、新座を訪れるきっかけづくりをする。また、大相撲の開催を契機として、既存の運動施設の認知度の向上、利用の活性化を図り、より多くの方に来ていただける取組につなげる。	3,000
⑦ ペコちゃん&ゾウキリンおともだち協定	ソフト 市内に工場を持つ株式会社不二家のキャラクター「ペコちゃん」と、新座市イメージキャラクターのゾウキリンのおともだち協定を締結する。締結式を実施するほか、市内の不二家3店舗でおともだち記念キャンペーンを実施する。	195

【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	令和元年度の段階から、プレ事業としてNHKの公開番組を実施するなど広く周知をしてきた。この勢いを引き継ぐ形で更にPR活動にも力を入れ、気運の醸成を図るとともに、学校や関係団体との連携を図りながら取組を推進する。
成果指標の達成見込み	市ホームページや広報紙、SNS、チラシ等を活用し、記念事業について積極的に周知して参加を促すとともに、年間を通して実施する冠事業の中でも工夫して例年と異なる特別感を発信していくことで市民の興味関心を高め、成果指標の達成を目指す。